

A S K A C O R P .

アスカマン21[®]

特許 第2550476号



PROFESSIONAL USE

土壤改良用微生物製剤

菌が耕す「菌耕農法」で土壤中の微生物の
菌相を改善し、団粒作りをすすめ、
連作障害から逃れましょう。

緑肥の腐熟促進と堆肥の活性化により、
根毛が増え、根圏が広がります。

作物の光合成が旺盛になるので硝酸塩が減り、
甘味が増し、美味しくなります。

使用方法の基準

1. 施用量 (10a当り、含むハウス内)
5袋 (100kg) 但し、3年以上施用した畑は4袋 (80kg) ライムソアーなどで均一に散布する。
2. 使用法
 - ① 緑肥、わら、モミガラ、菌茸類の廃オガ、パーク、堆肥など繊維質 (菌のエサ) と一緒に15cm~20cm鋤き込む。
 - ② 堆肥やモミガラ類は秋か春に撒き、緑肥 (ライ麦、エンバク、ソルゴーなど生のまま) を倒して、一緒に鋤き込む。
 - ③ わら、モミガラなど乾燥した繊維質は腐熟用Nが必要。特にハウスは鋤き込んだ後タツプリ灌水する。
 - ④ ①、②の場合は1、2週間で播種・定植可能。③の場合は約2週間以内に播種・定植可能。
 - ⑤ 肥培管理は慣行どおり。但し、3作ぐらいから2、3割り減肥する。石灰窒素、土壤消毒剤は使用しない (菌が傷む)。
3. 繊維質の投入量
 - ① レタス、キャベツ、大根など作期が3、4ヶ月以内のもの
緑肥3~4tと堆肥2t (腐熟用N不要)、又はわら300kg+モミガラ300kg (腐熟用Nとして尿素6kgか硫安12kg又はコメヌカ120kg添加する)
 - ② ナス、トマト、苺など作期が半年程度のもの
緑肥4~5tと堆肥2t (腐熟用N不要) 又はわら300kg+モミガラ300kgに廃オガ1tかパーク堆肥1t (腐熟用Nとして尿素8kgか硫安16kg又はコメヌカ150kg添加する)
 - ③ こんにゃく、アスパラガス、茶、バラ、果樹類など多年生又は永年性のもの
アスパラガスなどは茎葉を刻んだものと、モミガラか廃オガ800kg、茶は2番茶摘後の枝葉を切り落とした直後と秋の整枝した直後の茎葉、バラはソバ殻かモミガラ800kgと油粕、魚粕、骨粉、など500kg (土中ボカシとなる)、果樹類は生の剪定枝を刻んだもの約1tとモミガラか廃オガ600kg (腐熟用Nとして尿素8kgか硫安16kg又はコメヌカ150kg添加する)。

地力増進法に基づく表示

土壤改良資材の名称	アスカマン21
土壤改良資材の種類	嫌気性微生物・ゼオライト
表示者の氏名又は名称	有限会社 アスカ
及び住所	東京都日野市落川1099-21
製造事業所の名称	日東粉化工業株式会社
及び所在地	福島県田村市滝根町大字神俣字五林平3
正味量	20kg
原料	枯草菌・沸石
陽イオン交換容量	150meq/100g
用途 (主たる効果)	土壤の団粒化促進
使用方法	有機物 (繊維質) と一緒に鋤き込む

ご質問と注文方法

TEL/FAX: 042-593-5951 有限会社アスカ
〒191-0034 東京都日野市落川1099-21
E-mail: nakazawa@askaman.com
URL: <http://www.askaman.com>

現体製造: ナガセケムテックス株式会社
販売元: 有限会社アスカ

土・団粒作りに 土壤改良用嫌気性細菌製剤

いま菌耕農法が必要なわけ

いま、疲れている田畑に求められているのは、地球にやさしい持続性農業の実用化です。ここに紹介する菌耕農法は、この課題を実現するために、日比野進、南善朗の2人によって発明された菌製剤を基に、有限会社アスカとLPS応用研究所によって開発・普及・推進されている新しい農法です。

菌耕農法とは嫌気性菌を利用して有機質を循環させることにより、土壤の疲弊・劣化を防止し、地力を維持・向上させて、農産物の安定生産を実現する新しい仕組みです。また、安心して食べられる美味しい食材が確保できることから、現代の消費者ニーズにも応えられます。

菌が耕す菌耕農法で
安全で美味しい農産
物を消費者の食卓へ
届けましょう。